

エ | ネ | が | お 11

～エネルギーをつなぐ現場の素顔～



柴田 智大
中部電力 浜岡原子力発電所
危機管理部 防災課

何度も訓練を重ねることで、組織全体を成長させ、発電所を守る

中部電力では、浜岡原子力発電所（以下、浜岡）を引き続き重要な電源として活用できるよう、さまざまな安全対策を積み重ねています。その中で、万が一、緊急事態が発生しても、発電所をしっかりと守れるよう教育や訓練を通じて、従業員の対応力を維持向上させていくことが私の仕事です。

リスクを低減させるさまざまな取り組みを行ったうえで、それでも残るリスクに備えるため、国・自治体・関係機関・原子力事業者との連携も強化しています。

さまざまな関係者にご協力をいただきながら一緒に訓練を行うことで、それぞれが成長するとともに、組織を越えた一体的な対応ができるよう訓練を重ねています。



▲浜岡原子力発電所 緊急時対策所

昨日より今日、今日より明日と、日々改善を繰り返し、安全性を向上させることで、地域の皆さんに、少しでも安心していただけるよう全力で取り組んでいます。



01

さまざまな事態を想定し、常に高みを目指す

緊急事態はいつ起こるかわかりません。いつどのようなトラブルが発生しても、適切で確実な対応を行うことが必要です。そのため、平日に従業員が出社している状況だけでなく、休日や夜間など従業員の数に限られた状況でのトラブル発生も想定した訓練を重ねています。訓練で

大切なことは、それぞれの役割で適切に対応できた場合でも、それが最適な方法だったのか、さらにより良い方法はなかったのかを追求することです。そうすることで、一人ひとりの状況を分析する力や、判断する力を向上させ、従業員同士が円滑かつ適切な連携ができる体制を目指しています。

一方で、人間はミスをする生き物でもあります。従業員の技術力向上はもちろんのこと、「ミスをしない、ミスをしてフォローし合える仕組みづくり」を意識しています。

02

浜岡というチームが成長するための黒子としての喜び

訓練時は、私はプレーヤーではなく、黒子に徹します。私の役割は、訓練内容の検討や手順の整理、関係者との調整に始まり、訓練で生じた改善点や反省点を実際の運用や手順に反映させ、訓練による成長を最大化させること。訓練を通じた個人の成長が相互に作用すると、組織全体の対

応力が向上し、浜岡というチーム全体での成長が実感できます。個人の成長ではなく、組織全体の成長を目の当たりにできることが、この業務での一番のやりがいです。組織の成長が発電所の安全性向上、ひいては地域の安心につながると思い、信念と誇りを持って取り組んでいきたいと思っています。



年に数回、全従業員（約600名）にて実施する総合訓練をはじめ、毎月実施する100人規模の訓練、それぞれの役割ごとの小規模の訓練など、2019年度は、年間に700回程度の訓練を行いました。

03

社外の多くの力や知見に支えられてさまざまな事態に備える

訓練は、中部電力の従業員にとどまりません。万が一、地震や津波などにより原子力災害が発生した場合には、通常の道路が使用できなくなることも想定されます。

そういった場合にも、けが人の病院への搬送や高齢者の避難などを確実に行えるよう、海上保安庁、市、消防本部、警察と連携した訓練も行っています。

社外の機関と連携した訓練を実施することで、訓練を違った視点から見直すことができ、新たな改善点の発見につながります。そうした社外の力や知見に支えられた検証と改善の積み重ねこそが、緊急時のさまざまな事態に対応するための力になるのだと思います。



のぞき見リフレッシュ



結婚以来、機会は減ってしまいましたが実家で飼っているトイプードル(オス)に会うために帰省することが楽しみです。仕事柄デスクワークが多いため、犬と散歩したり、何も考えず、犬に触れ合うことで、リフレッシュになります。もう、ただただ可愛がることが、最高の癒やしです(笑)

オフの楽しみは実家のトイプードルに会えること

訓練を重ねていくことで参加する所員の動きや判断の精度が上がっていくことが目に見えてわかります

